

4/24 早稿

沖縄県民世論調査

米軍基地負担「不公平」83% 復帰後歩み「満足せず」55%

共同通信社は二十三日、沖縄県の日本復帰五十年となる五月十五日を前に、県民を対象に実施した郵送世論調査の結果をまとめた。復帰して「良かったと思つ」が94%となつた一方、復帰後の県の歩みに「満足してない」と答えた人は55%に上つた。このうち40%が「米軍基地の整理縮小が進んでいない」を理由に挙げた。基地負担に関する他の都道府県との比較では、「どちらかといえは」を含む「不公平だと思つ」が計83%を占めた。

復帰から半世紀を経ても過重な基地負担に対する県民の不満が浮き彫りとなつた。復帰後の歩みに「満足している」は41%で、「大きい減りすぐれだ」が

うち「日本国憲法の下、人権が尊重されている」を理由とした人が31%と最多だった。

在日米軍専用施設の約7割が沖縄に集中する現状には、「どちらかといえ

ば」を含め計75%が賛成した。
米軍普天間飛行場（宜野湾市）の名護市辺野古移設を進める政府の姿勢を「支持しない」は67%。このうち、今後の対応として35%が「工事を中止し、普天間飛行場を開鎖する」ことを求めた。

「どちらかといえは」を含め、米国に親しみを感じると答えたのは計76%だったが、米軍を「信頼していない」との回答は半数超の51%だった。

他の都道府県との間に経済格差があると回答したのは93%に達した。沖縄発展のため何に力を入れるべきかとの質問（二つまで回答）では、48%が「教育」と答えた。

県民の帰属意識についても尋ねた。85%が沖縄出身である」と、「誇りを持つている」と回答。「うちなーんちゅ（沖縄人）」と「日本人」のどちらを強く意識するかは、「どちらかといえば」も入ると計70%が「うちなーんちゅ」だった。

沖縄の島々で受け継がれてきた「しまくとうば（島言葉）」は、「ある程度聞けるが、話せない」が最も多く56%。「聞く」とも話すことでもできる29%、「まったく聞けないし、話せない」12%だった。

調査は二一四月、沖縄県の十八歳以上の男女千五百人を対象に実施した。

